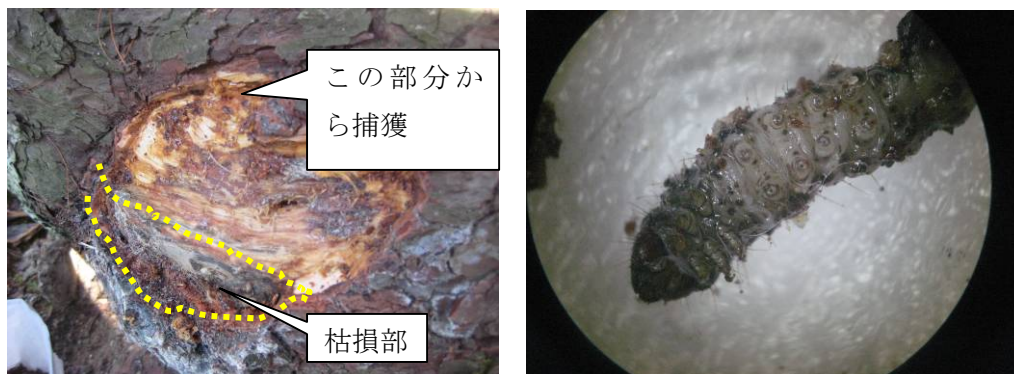


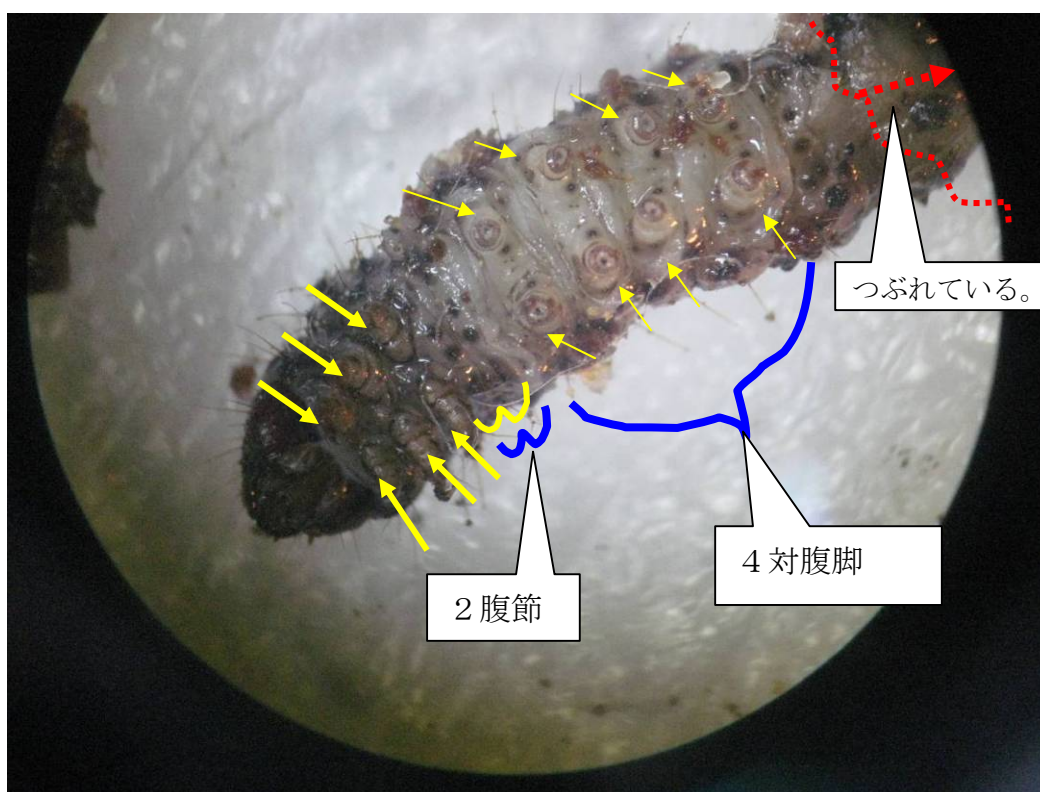
1) 剥皮調査

新しくヤニの滲出している樹皮をはがすと幼虫（約 15mm）が出てきた、**形成層**を食害している。（過去の食害跡は、辺材部が一部枯損している。）



2) 同定

幼虫の特徴（2腹節、4対腹脚）、頭部の特徴から蛾の仲間が推測された。
同時に脱出孔に残っていた抜け殻からも蛾、ハチ、の仲間であることが推測される。



①大阪の公共機関での同定結果 **コクロモンベニマダラハマキ**であることが判明した。

このガは6月～7月飛来産卵、幼虫がマツ科：アカマツの樹幹の形成層を食害する。
上記ヒメコマツの事例は、台木のアカマツ部分にのみ加害していた。